

(要保存版)

(支部長引継ぎ用)

友松会 研究活動等の奨励に関する運営の手引き

事業1～事業4の各様式、参考資料

2023（令和5）年6月発行

友松会

# 目 次

はじめに	1
<b>事業1 松沢研究奨励賞 A部門</b>	<b>2</b>
様式1-1 令和 年度 松沢研究奨励賞A部門候補者推薦書	3
参考 松沢研究奨励賞 A部門 提出文書プロット例	4
参考 松沢研究奨励賞 A部門 受賞候補者推薦依頼（研修部長→担当ブロック副会長）	5
参考 松沢研究奨励賞 A部門 受賞決定のお知らせ 「所属長宛」	6
参考 松沢研究奨励賞 A部門 受賞決定のお知らせ 「本人宛」	7
参考 松沢研究奨励賞 A部門 受賞者への「友松」掲載原稿執筆依頼 「本人宛」	8
<b>事業1 松沢研究奨励賞 B部門</b>	<b>9</b>
様式1-2 令和 年度 松沢研究奨励賞B部門候補者推薦書	10
参考 松沢研究奨励賞 B部門 提出文書プロット例	11
参考 松沢研究奨励賞 B部門 受賞決定のお知らせ 「所属長宛」	12
参考 松沢研究奨励賞 B部門 受賞決定のお知らせ 「本人宛」	13
<b>事業2 支部活動活性化への支援</b>	<b>14</b>
様式2-1 令和 年度 支部活動活性化に係る申請書（助成金・講師等派遣）	15
様式2-2 令和 年度 支部活動活性化に係る申請審査結果通知書	16
様式2-3 令和 年度 支部活動活性化に係る報告書	17
様式2-4 令和 年度 支部活動活性化に係る助成金会計収支報告書	18
<b>事業3 会員または会員が主となるグループの活動への支援</b>	<b>19</b>
様式3-1 令和 年度 友松会会員による研究活動等助成金申請書	20
様式3-2 令和 年度 友松会会員による研究活動等助成金申請審査結果通知書	21
様式3-3 令和 年度 友松会会員による研究活動等報告書	22
様式3-4 令和 年度 友松会会員による研究活動等助成金会計報告書	23
<b>事業4 その他の取組への支援</b>	<b>24</b>
様式4-1 令和 年度 友松会研究奨励金特例申請書	25
様式4-2 令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る事業計画書	26
様式4-3 令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る収支予算書	27
様式4-4 令和 年度 友松会研究奨励金特例申請審査結果通知書	28
様式4-5 令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る報告書	29
様式4-6 令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る助成金収支報告書	30
<b>【参考資料】</b>	
友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定	31
友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定 細則	32
友松会事業1 A部門候補者選出ブロック一覧（研修部作成）	33

## 【はじめに】

### 1 「友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定」制定に至る経過（概要）

#### (1) 松沢研究奨励賞のあゆみから

明治13(1880)年神奈川県師範学校を卒業された松沢高次郎氏は、横浜市立青木小学校校医として勤められ、人望が厚く尊敬される人物であった。松沢氏の甥の子である相澤義雄氏は、神奈川県師範学校を大正13(1924)年卒業後、教職に就いたが、松沢氏の熱望により医師の道に進むこととなった。

相澤氏は昭和34(1959)年、松沢氏の遺志を受け継ぎ教育基金の設定を発表し、昭和40(1965)年100万円を友松会に贈呈した。昭和41(1966)年、友松会は、寄贈された基金の利子活用によって、「奨励賞の性格をもたせ永く多数の人々の教育に寄せる研究により、この荣誉に浴せしめ世に裨益したい」と、「松沢研究奨励金運営規定」を制定した。相澤氏はその後も、同56(1981)年100万円、同60(1985)年100万円を本会に寄付された。

また、平成9(1997)年、吉田太郎氏、水戸部正男氏、大浦美代氏3名からのご芳志1,120万円を基金として、友松会の活性化のために「友松会 研究奨励金運営規定」を制定した。これは、研究成果を表彰する松沢研究奨励賞と異なり「2年間研究を委嘱する」という研究奨励金制度というところに特色があった。その後、平成25(2013)年、「友松会 松沢研究奨励金運営規定」と「友松会 研究奨励金運営規定」を一元化して「友松会 研究奨励金運営規定」となり、その対象者は「友松会会員の個人、または、会員を中心とした団体とする」として、研究奨励金を大きく減ずることなく現在に至っている。

#### (2) これまでの松沢研究奨励賞受賞者について

昭和41(1966)年の第1回受賞から毎年、県内各支部から学校研究あるいは個人研究に対して行われてきている。これまで、令和4(2022)年までの57年間で、学校研究に対して5件、個人・グループ研究に対して136件、合計141件に対して松沢研究奨励賞として表彰してきており、神奈川県内の教育活動の発展に寄与してきている。

### 2 「友松会 研究奨励金運営規定」改定への経過

以上を踏まえ、令和4(2022)年7月、役員会内に「友松会松沢研究奨励金運営検討プロジェクト委員会」を立ち上げ16回の会議を行った。委員会での検討内容は役員会において意見交換積み重ねた。その中で、現行の「友松会 研究奨励金運営規定」を改定し、新規の規定を制定することが望ましいとの結論に達した。また、令和5年2月の支部長会にて、3月には常任理事会にて、改定に関する中間報告を行い、頂いたご意見を踏まえて委員会、役員会で更に検討を加えた。その結果「友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定(案)」「同 細則(案)」、実際の運営にあたり必要となる「友松会 研究活動等の奨励に関する運営の手引き(案)」を作成した。

### 3 「友松会 研究奨励金運営規定」を改定し「友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定」を新規制定する理由

- ① 昭和41(1966)年以降、松沢研究奨励金、友松会研究奨励金は受賞者への記念品贈呈や2年間の研究委嘱として執行されてきている。研究奨励金の原資は銀行利子の運用により57年間、大きく減ずることなく現在に至っている。上記1の(1)に記してある規定の制定に関する趣旨に沿った活用のあり方が、現在のままでよいかどうかを検討し、研究奨励金授与という限定的なものから広げることが良いと考えた。
- ② 学校現場での友松会会員の減少や会費納入率の低下、学生会員が卒業後も継続して友松会会員となる意義を見出せるような活動の推進の必要性、教育活動の多様化への対応等の問題を踏まえ、その趣旨に沿った活用のあり方について検討し、友松会会員の教育活動等への支援を充実させていく必要があった。
- ③ 研究奨励金の活用により、支部活動活性化を促したり会員が取り組んでいる活動を互いに理解しあったりするなど、友松会への関心をより高めることができるのではないかと考えた。
- ④ 平成27(2015)年度から設定された学生会員制度に関して、学生への支援を充実させていくために、友松会研究奨励金の活用を具体化する必要があった。

### 4 「友松会 研究活動等の奨励に関する運営の手引き」(以下 運営の手引き)の活用にあたって

- ① 運営の手引きの活用にあたっては、「友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定」「同 細則」に則り、適切な運営を図るための指針として取り扱うものとする。
- ② 「友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定」「同 細則」の運営については、役員会内に「友松会 研究活動等の奨励に関する運営担当」(以下 奨励金等運営担当)を組織し、事業1～事業4の窓口とする。奨励金等運営担当は、総務部、経理部、弘報部、研修部、組織部より、部長または部担当副会長があたることとし、必要に応じて事務局と連携して進める。ただし、事務局に過度な負担をかけないよう配慮する必要がある。
- ③ 各事業の具体的な担当は、次のようにする。
  - ・「事業1 A部門」は、研修部が主体となり、該当するブロック副会長、支部長と連携して取り組む。
  - ・「事業1 B部門」は、奨励金等運営担当が全体の窓口となり、支部長、ブロック副会長が主体となって取り組む。
  - ・「事業2」は、奨励金等運営担当が窓口となって各支部長が主体となって取り組む。
  - ・「事業3」は、奨励金等運営担当が、会員からの申請を整理し、審議・承認・連絡に至る過程の主たる担当となる。
  - ・「事業4」は、奨励金等運営担当が窓口となり、事務局と連携しながら申請を整理し、審議・承認・連絡に至る過程の主たる担当となる。

## 〔事業1〕 松沢研究奨励賞A部門

- ① 本部門の主たる担当は研修部とし、候補者推薦に係る推薦書作成などは、支部長やブロック副会長が担い、受賞候補者や所属長、また、研修部とも連絡を密にして進める。
- ② 候補者選出にあたっては、所属長に「松沢研究奨励賞A部門」の趣旨とともに、受賞者決定後の流れについて説明し、十分に理解してもらうようにする。なお、所属長には会長から依頼をしてもらう場合もある。
- ③ 受賞対象は、会員または会員を中心とするグループに対してとする。
- ④ 「松沢研究奨励賞受賞にあたっては、他機関によるものも含め、同一事項について表彰を受けたことのないものとする。」については、例えば、各地区の研究会や校内研究などで取り組んだ研究実践内容が表彰を受けていないものであれば、それをベースにして研究内容を再度まとめ直したりサブテーマを新たに設けて書き直ししたりしたものは可とする。
- ⑤ ブロックから推薦された受賞候補者について、推薦書（様式1-1）をもとに役員会で審議し承認する。
- ⑥ 受賞候補者は、「参考資料 提出文書プロット例」を参考にして、受賞対象となる取組についてまとめ、期日までに事務局まで提出することとする。
- ⑦ 受賞者に対しては、県総会の折に賞状と研究奨励金から1件3万円を授与する。
- ⑧ 研修部が作成している受賞ブロックの予定表に基づき、原則的に、ブロック輪番制から1件、県総会開催ブロックから1件、毎年2件の受賞者を選出する。
- ⑨ 受賞者選出については、原則として年間2件とすることを優先事項とする。したがって、候補者選出該当ブロックは、見通しをもって候補者選出にあたることとする。それでも、何らかの事情で候補者選出が難しい場合は、ブロック内の支部間での調整をしたり次年度以降のブロックと相談して順序を変更したりすることも可とする。その上でもなお該当者がいない場合は、受賞者なしとすることも可とする。
- ⑩ 受賞までの手順、提出書類の様式は運営の手引きに掲載しているので、それに準じて作成することとする。

### 【大まかな流れ】

受賞までの時期	内容	担当	備考
選考前年度 まで	ブロック内で候補者選出支部を選定 支部内で候補者選定を進める。	支部役員等 副会長	
候補者選考年 度	支部で候補者選出 ブロック副会長確認 所属長に説明・依頼・確認	支部 副会長 副会長・支部長 (会長)	様式1-1  (参考例)  (参考例)  (参考例)
10月	推薦書等作成・提出	支部長・所属長 候補者・副会長	
11月	受賞内容に関する文書作成・提出	候補者・支部・ 副会長	
11月	役員会審議・承認	研修部・副会長	
12月	受賞決定通知・連絡、今後の予定	研修部	
12月	友松掲載原稿依頼	弘報部	
2月	同 執筆・提出	受賞者	
受賞年度	研究発表会発表内容整理・作成 県総会にて表彰 研究発表会にて発表	受賞者・研修部 総務部 研修部	

[様式 1 - 1]

令和 年度 松沢研究奨励賞 A部門候補者推薦書

記載日： 年 月 日

候補者氏名 <sup>ふりがな</sup>		所属支部	
所属校・職		卒業学部 課程・科名 (卒業年)	
推薦理由 (研究履歴を含む)			
推薦者・役職・氏名：			

候補者の研究について
研究主題
研究概要

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること。

(参考：松沢研究奨励賞 A部門 受賞候補者提出文書プロット例)

- ・受賞候補者が受賞内容に関して作成するものは、おおよそ、次のようになる。
  - ①受賞対象となる研究内容をまとめた研究概要等の提出文書
  - ②友松会機関誌「友松」掲載の文書
  - ③研究発表会当日の発表原稿（手持ち）、必要に応じてプレゼン画面や当日配布資料
- ・受賞対象者が提出する①の文書は、取り組んだ研究内容に応じて執筆する。その参考例を「【友松会研究奨励賞 A部門 提出文書プロット例】」として示している。
- ・「①受賞対象となる研究内容をまとめた研究概要等の文書」の書式の指定は特にないので、既に作成しているものがある場合はその書式を活かして良い。標準的なものを次に示しておく。  
ワード標準書式（A4横書き、40字×40行、8ページ程度を目安。写真、図表等を含む）。
- ・提出文書、推薦書等は事務局で保管する。

※以下は、参考例なので、自分の研究内容に応じて自由に執筆してよい。

【友松会研究奨励賞 A部門 提出文書プロット例】

**I はじめに**

- ・研究に取り組むきっかけとして、例えば、学校教育の抱えている課題や背景に触れるなどが考えられる。そして、その研究に取り組むことの必要性、また、これまでの取組での課題などを踏まえて研究の目的として述べていくなど、自由に書いていくことが考えられる。

**II 研究主題について**

- ・研究主題を設定した理由について述べる。例えば、「学校教育目標（学校の重点課題なども含む）の具現化を図るために」や「県の教育研究会や市等の研究会研究主題等の実現を図るために」などが考えられる。また、児童生徒の実態との関連を述べることもよい。
- ・一方、社会の要請、例えば、学習指導要領との関連や教育行政との関連からも述べることができる。
- ・研究主題をどうとらえているのかを述べることもよい。

**III 研究仮説と研究方法（あるいは、研究の手立て）**

- ・「研究仮説」や「研究の視点」「研究の手立て」など、取り組まれている研究内容に応じて、自由に項目を設定して述べる。「研究仮説」は必ずしも立てなくても良いが、「研究の視点」や「研究の手立て」など、研究を整理していくための方法に関して述べていくことが考えられる。「研究の視点」や「研究の手立て」を立てる場合、(1)・・・(2)・・・と2点以上あるとまとめやすくなる。また、抽出児の変容をとらえていくことも研究方法の一つである。

**IV 研究の計画**

- ・ある教科等の授業実践をもとに論じる場合、例えば、「単元名」「学習指導計画（学習指導の構想）」を書くことも考えられる。また、具体的に単元の学習指導計画の中のある1時間の授業をもとに考えていく場合、「本時展開」を書き込むことも考えられる。

**V 研究の実際と考察**

- ・研究の手立てや視点を踏まえて、実際の姿（授業記録や抽出児の記録、作品、写真等）から述べる。

**VI 研究の成果と課題**

- ・「V 実際と考察」でまとめたことを整理してまとめて述べる。また、研究に取り組んだことを振り返り、今後の課題を述べることも考えられる。

(参考：松沢研究奨励賞 A部門 受候補者推薦について 研修部長から担当ブロック副会長宛)

令和〇年6月吉日

副会長様

友松会会長 ○○ ○○

研修部長 ○○ ○○

## 「松沢研究奨励賞 A部門」受賞候補者の推薦について

日頃より友松会の活動にご支援いただき感謝申し上げます。この度は「松沢研究奨励賞 A部門」の受賞候補者を推薦いただくこととなりました。ご多用とは存じますがよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

### [推薦したい候補者]

- 研究実践の成果が、学校の日頃の指導に生かすことができる具体的な実践研究をしている者
- 小学校と中学校の現役

### [受賞者候補の選考手順]

- 1 5月の役員会にて担当ブロックを紹介し、担当副会長から支部長に候補者の推薦を依頼する。
- 2 9月の役員会にて推薦候補者を紹介し、役員会内定後、支部担当副会長から支部長を通して、学校長に推薦文を依頼する。
- 3 11月の役員会にて推薦文と候補者の提案内容を紹介し、受賞者に決定する。決定通知を所属長と受賞者本人に送付する。

### [受賞者の発表の場]

令和 ○ 年度総会後の研究発表会で発表する予定。

- ※ 受賞者の研究、発表原稿は、支部担当副会長、支部長を中心に支部で責任をもって内容を検討ください。必要に応じて研修部も協力する。
- ※ 研究概要は「友松○○○号」に掲載されます。

(参考：松沢研究奨励賞 A部門 受賞決定のお知らせ 「所属長宛」)

令和〇年12月吉日

〇〇〇〇立〇〇小学校長

〇〇 〇〇様

友松会会長 〇〇 〇〇

研修部長 〇〇 〇〇

## 「松沢研究奨励賞 A部門」受賞決定のお知らせ

寒冷の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、友松会の活動にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。今後も引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、この度、貴校 〇〇 〇〇教諭の研究が高く評価され、「松沢研究奨励賞 A部門」の受賞者に決定されました。お祝い申し上げます。また、校長先生には、これに先立ち推薦書作成にご協力を頂き、感謝申し上げます。

授賞式は、令和〇年6月 日（ ）の友松会総会において行われます。また、総会終了後の研究発表会にて受賞された研究内容に関してご報告していただくことも予定しております。その折には、改めてご連絡申し上げます。

今後も、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



(参考：松沢研究奨励賞 A部門 受賞決定のお知らせ 「本人宛」)

令和 年 1 2 月 吉日

〇〇〇〇立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇様

友松会会長 〇〇 〇〇

研修部長 〇〇 〇〇

## 「松沢研究奨励賞 A部門」受賞決定のお知らせ

師走の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、友松会の活動にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。今後も引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、この度、先生の研究が高く評価され、「松沢研究奨励賞 A部門」の受賞者に決定されました。お祝い申し上げます。

この賞は、友松会（横浜国立大学教育系学部同窓会）主催による、優れた教育実践に対して贈られる賞です。

授賞式は、令和 年 6 月 日（ ）の友松会総会において行われます。また、総会終了後の研究発表会にて受賞された研究内容に関してご報告していただくことも予定しております。その折には、改めてご連絡申し上げます。

最後に、年末のご多用の折、健康には十分にご留意され、さらにご活躍されますことを祈念申し上げます。

(参考：松沢研究奨励賞 A部門 受賞者への「友松」掲載原稿執筆依頼 「本人宛」)

令和 年 12月 吉日

〇〇〇〇〇立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇 様

友松会会長 〇〇 〇〇

弘報部部長 〇〇 〇〇

### 「友松」原稿執筆のお願い

「友松〇〇〇号」掲載の「松沢研究奨励賞」の原稿を、次のように執筆していただきたくお願いいたします。

**題名** (松沢研究奨励賞受賞論文の題)

**原稿** 友松会誌2頁分 (題を含めず、本文21字×152行=3,192字以内)

- \* 提案内容を要約して【Word(.docx)、一太郎(.jtd)、メモ帳(.txt)】で作成し添付ファイルにてお送りください。
- \* 現所属・職名・卒業課程・卒業年・氏名をお知らせください。
- \* 本文に写真等を挿入する場合は、L版1枚につき4行分(21字×4行)を空けてください。(全文で152行にしてください)
- \* 顔の分かる写真と挿入写真を、別ファイル(.jpg)で添付してください。

**期日** 令和〇年 月 日まで

- ・原稿は期日前でも結構ですので、出来次第、お送りください。

**送付先**：友松会事務局メールアドレス [yuusyoukai@nifty.com](mailto:yuusyoukai@nifty.com)

メール件名を「友松〇〇〇号原稿(松沢賞)」としてください。

**問合せ先電話**：045-326-6700 (友松会事務局)

## 〔事業1〕松沢研究奨励賞B部門

【令和5年度より新規に設置する意図】

学校現場は、多忙な中、様々な教育課題に向き合いより良い教育の姿を求めて教育活動に取り組んでいる。特に、若手教員が増えていることから、支部活動活性化に向けた活動の一環として新設した「B部門」の活用を進めたい。

- ① 主たる担当は支部とする。候補者推薦に係る推薦書作成などは支部が担当し、ブロック副会長が推薦書に基づき受賞候補者や所属長と連絡をとって進めるようにする。
- ② 候補者選出にあたって、支部は所属長に「松沢研究奨励賞B部門」の趣旨とともに、受賞者決定後の流れについて説明し、十分に理解してもらうようにする。なお、所属長にはブロック副会長から依頼をしてもらう場合もある。
- ③ 受賞対象は、会員または会員を中心とするグループとする。
- ④ 「松沢研究奨励賞受賞にあたっては、他機関によるものも含め、同一事項について表彰を受けたことのないものとする。」については、例えば、各地区の研究会や校内研究などで取り組んだ研究実践内容が表彰を受けていないものであれば、それをベースにして研究内容を再度まとめ直ししたりサブテーマを新たに設けて書き直したりしたものは可とする。
- ⑤ 受賞者に対しては、県総会の折に賞状と研究奨励金から1件1万円を授与する。
- ⑥ 「各支部年間1件以内は受賞を可とする。」とは、候補者が複数名いた場合、その年度は1件のみとし、次年度以降に他候補者が受賞できるということである。また、必ずしも受賞者を出すことを求めるものではないということである。
- ⑦ 受賞者の「教職経験5～10年を目安とする」としたのは、若手教員への励ましを含め、友松会への関心を高める目的である。この趣旨を踏まえて受賞者選考に取り組むことが望ましい。また、「5～10年を目安」としたのは、例えば、産育休等で教職経験年数が10年を超える場合があっても、受賞候補者となり得るということを想定しているからである。
- ⑧ B部門受賞者選定過程において、「事業2」の活動とつなげることも可能である。
- ⑨ 受賞候補者は、「事業1 A部門 参考資料 提出文書プロット例」を参考に、取り組んだ内容を適切にまとめ、期日までに事務局まで提出することとする。
- ⑩ 「受賞者は、受賞内容について、「友松」への掲載など適切な方法で報告することを原則とする。」(細則)とは、受賞内容に関しては、例えば、簡潔にまとめたものを「友松」に掲載したり県総会や横国Dayなどの場で文書配布したりするなど、適切な方法で報告することを意味している。また、支部だよりに掲載したり支部総会等の場で報告したりすることも考えられる。
- ⑪ 受賞までの手順、提出書類の様式は運営の手引きに掲載してある。それに準じて作成する。

### 【大まかな流れ】

受賞までの時期	内容	担当	備考
選考前年度	支部活動により支部会員の情報を共有 候補者とのつながりをもつ	支部役員等	
候補者選考年度	支部で候補者選出 所属長に説明・依頼・確認 推薦書等作成・提出	支部役員等 支部長(副会長) 支部長・所属長	様式1—2  (A部門の 参考例) (参考例)
10月	受賞内容に関する文書作成・提出	候補者・支部・ 副会長	
11月	推薦書受理・確認・承認	副会長	
11月 12月	役員会報告 受賞決定通知・連絡、今後の予定	副会長・支部長	
受賞年度	県総会において表彰	総務部、受賞者 支部長・副会長	

[様式1-2]

令和 年度 松沢研究奨励賞B部門候補者推薦書

記載日： 年 月 日

候補者氏名 <small>ふりがな</small>		所属支部	
所属校・職		卒業学部 課程・科名 (卒業年)	
推薦理由 (研究履歴を含む)			
推薦者・職・氏名：			

候補者の研究について
研究主題
研究概要

注) 印刷時にA4縦用紙1枚以内となるよう簡潔にまとめること。

(参考：松沢研究奨励賞 B部門 受賞候補者提出文書プロット例)

※部門の提出文書については、特にきまりはないが、A部門受賞者の提出文書として示している次のプロット案を参考に、枚数にこだわらず、まとめるようにすることが望ましい。

- ・ B部門受賞候補者が受賞内容に関して作成するものは、おおよそ、次のようになる。
  - ①受賞対象となる研究内容をまとめた研究概要等の提出文書（プロット例を参考に作成）
  - ②友松会機関誌「友松」掲載の文書←B部門受賞者は概要骨子のみの予定
  - ③B部門受賞者が口述発表する場合は、特に設けていない。
- ・ 受賞対象者が提出する①の文書は、取り組んだ研究内容に応じて執筆する。その参考例を【友松会研究奨励賞 A部門 提出文書プロット例】として示している。
- ・ 「①受賞対象となる研究内容をまとめた研究概要等の文書」の書式の指定は特にないので、既に作成しているものがある場合はその書式を活かして良い。標準的なものを次に示しておく。  
ワード標準書式（A4横書き、40字×40行、8ページ程度を目安。写真、図表等を含む）。
- ・ 提出文書、推薦書等は事務局で保管する。 → B部門受賞者の枚数はこだわらない。

※以下は、参考例なので、自分の研究内容に応じて自由に執筆してよい。→ B部門も同様。

【友松会研究奨励賞 A部門 提出文書プロット例】→B部門受賞者はこれを参考にまとめるとよい。

<b>I はじめに</b> <p>・ 研究に取り組むきっかけとして、例えば、学校教育の抱えている課題や背景に触れるなどが考えられる。そして、その研究に取り組むことの必要性、また、これまでの取組での課題などを踏まえて研究の目的として述べていくなど、自由に書いていくことが考えられる。</p>
<b>II 研究主題について</b> <p>・ 研究主題を設定した理由について述べる。例えば、「学校教育目標（学校の重点課題なども含む）の具現化を図るために」や「県の教育研究会や市等の研究会研究主題等の実現を図るために」などが考えられる。また、児童生徒の実態との関連を述べることもよい。 ・ 一方、社会の要請、例えば、学習指導要領との関連や教育行政との関連からも述べるができる。 ・ 研究主題をどうとらえているのかを述べることもよい。</p>
<b>III 研究仮説と研究方法（あるいは、研究の手立て）</b> <p>・ 「研究仮説」や「研究の視点」「研究の手立て」など、取り組まれている研究内容に応じて、自由に項目を設定して述べる。「研究仮説」は必ずしも立てなくても良いが、「研究の視点」や「研究の手立て」など、研究を整理していくための方法に関して述べていくことが考えられる。「研究の視点」や「研究の手立て」を立てる場合、(1)・・・(2)・・・と2点以上あるとまとめやすくなる。また、抽出児の変容をとらえていくことも研究方法の一つである。</p>
<b>IV 研究の計画</b> <p>・ ある教科等の授業実践をもとに論じる場合、例えば、「単元名」「学習指導計画（学習指導の構想）」を書くことも考えられる。また、具体的に単元の学習指導計画の中のある1時間の授業をもとに考えていく場合、「本時展開」を書き込むことも考えられる。</p>
<b>V 研究の実際と考察</b> <p>・ 研究の手立てや視点を踏まえて、実際の姿（授業記録や抽出児の記録、作品、写真等）から述べる。</p>
<b>VI 研究の成果と課題</b> <p>・ 「V 実際と考察」でまとめたことを整理してまとめて述べる。また、研究に取り組んだことを振り返り、今後の課題を述べることも考えられる。</p>

(参考：松沢研究奨励賞 B部門 受賞決定のお知らせ 「所属長宛」)

令和〇年12月吉日

〇〇〇〇立〇〇小学校長

〇〇 〇〇様

友松会会長 〇〇 〇〇

〇〇ブロック副会長 〇〇 〇〇

## 「松沢研究奨励賞 B部門」受賞決定のお知らせ

寒冷の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、友松会の活動にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。今後も引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、この度、貴校 〇〇 〇〇教諭の研究が高く評価され、「松沢研究奨励賞 B部門」の受賞者に決定されました。お祝い申し上げます。

授賞式は、令和〇年6月 日（ ）の友松会総会において行われます。また、受賞された研究内容に関しては、紙面上とはなりますがご報告していただくことも予定しております。その折には、改めてご連絡申し上げます。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

(参考：松沢研究奨励賞 B部門 受賞決定のお知らせ 「本人宛」)

令和 年 1 2 月 吉日

〇〇〇〇立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇様

友松会会長 〇〇 〇〇

〇〇ブロック副会長 〇〇 〇〇

## 「松沢研究奨励賞 B部門」受賞決定のお知らせ

師走の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、友松会の活動にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。今後も引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、この度、先生の研究が高く評価され、「松沢研究奨励賞 B部門」の受賞者に決定されました。お祝い申し上げます。

この賞は、友松会（横浜国立大学教育系学部同窓会）主催による、優れた教育実践に対して贈られる賞です。

授賞式は、令和 年 6 月 日（ ）の友松会総会において行われます。また、受賞された研究内容に関しては、紙面上とはなりますがご報告していただくことも予定しております。その折には、改めてご連絡申し上げます。

最後に、年末のご多用の折、健康には十分にご留意され、さらにご活躍されますことを祈念申し上げます。

## **〔事業2〕支部活動活性化への支援**

### **【新規に設置する意図】**

支部活動が停滞する理由の一つに予算の逼迫があげられる。そこで、支部会員が相互に交流しながら教育に関する研究活動等に取り組んだり、支部会員が相互に交流したりすることによって支部活動が活性化されるように、支部に対して支援できるようにする。

- ① 「支部会員による教育関係の研究に係る活動」「支部会員が相互に交流する活動」を実施する場合、「支部活動活性化に係る申請書」（様式2-1）を作成して事務局に提出する。最終締め切りは8月末日までとする。提出された申請書については、原則的に翌月の役員会にて審議し承認する。支援内容は、助成金や講師派遣である。助成金は年間最大3万円までとする。
- ② 具体的活動として、例えば、「小学校のICT機器の効果的活用に関する研修」など、学校現場の教育に関わる内容で講演会、研修会を開催して支部会員の参加を通して支部活動を活性化しようとする場合、また、学校教育に直接関連する内容でなくても支部会員が一堂に会して支部活動を活性化しようとする場合など、支部の創意工夫により取り組むことが可能である。
- ③ 助成金については、講師謝金や会場費、茶菓代等に充てることができる。なお、参加者の交通費に充てることはできない。
- ④ 支部活動活性化に向けての支援としては、他支部の友松会会員を講師としての派遣依頼に関しても可能とする。
- ⑤ 助成金の支給を受けた支部は、支部活性化に係る活動実施日から原則として1か月以内に、所定の用紙により会計報告と報告書を事務局に提出することとする。
- ⑥ 「事業2」としての活動は支部活動活性化として実施されるものではあるが、個人会員が支部に所属するきっかけとなるよう個人会員も参加対象として企画することが望ましい。
- ⑦ 「申請内容に基づいて実施した活動については、適切な方法で報告することを原則とする。」（細則）とは、他支部への情報提供による友松会全体の活性化につなげられるよう、友松会HP等を活用するなど何らかの方法で他支部や全会員に向けてその内容を報告してもらうことを意味する。
- ⑧ 「事業2」は、申請年度を含む2年間を一まとまりとして計画して取り組むことができる。その場合、申請書（様式2-1）にその旨を記載する。なお、主たる活動が次年度であっても申請年度の報告書、会計報告書を提出するとともに、次年度も申請書を作成して申請するものとする。
- ⑨ 「事業2」による支部の事業は近隣支部合同で実施することも可能である。その場合、単独では最大3万円までの助成金であるが、例えば3支部合同とすれば最大9万円の助成金により実施もできる。



[様式2-1]

年 月 日

令和 年度 支部活動活性化に係る申請書（助成金・講師等派遣）

友松会会長

〇〇 〇〇様

友松会〇〇〇〇運営規定並びに細則に基づき、支部活動活性化に係る活動を実施するため、次の通り助成金の申請をします。

支部名	ブロック	支部																											
支部長名	連絡先																												
事業名・区分	<input type="checkbox"/> 研究会 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 講演会    その他（                      ）																												
事業予定日	年 月 日（ ）                      :                      ~																												
予定会場																													
目的																													
参加者・対象	参加予定 名 対象： <input type="checkbox"/> 全会員 <input type="checkbox"/> 支部会員    その他（                      ）																												
主な事業内容  〔複数年度にまたがる計画の場合、その旨を加筆すること。〕																													
申請額	円																												
予算執行計画  〔支部予算も組み込んで実施する場合、備考欄にその旨記入すること。複数年度、他支部合同で実施する場合、申請額とこの欄の合計が合わなくてもよい。〕	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>金 額</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr> <td>合 計</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		項 目	金 額	備 考																						合 計		
項 目	金 額	備 考																											
合 計																													
講師等派遣  〔他支部の友松会会員を講師として依頼したい場合、希望内容を記入すること。〕																													

[様式 2 - 2]

第 号  
令和 年 月 日

令和 年度 支部活動活性化に係る申請に対する審査結果通知書

支部長

様

友松会会長 ○○ ○○

令和 年 月 日付で 支部より（ 助成金・講師等派遣 ）申請のあり  
ました内容について、役員会において審議し、次の通り決定しましたので通知します。

次の通り（ 助成金・講師等派遣 ）申請に基づき決定しました。

1 事業名  (事業区分)	_____
	<input type="checkbox"/> 研究会 <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 講演会 その他 ( _____ )
2 決定した内容	<input type="checkbox"/> 助成金 _____ 円 <input type="checkbox"/> 講師等派遣 _____
3 交付の条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金は原則として交付年度内で執行する。ただし、執行計画を2年間として申請している場合、止むを得ない特別な事情があった場合は除く。</li> <li>・原則として事業終了後1か月以内に報告書（内容および収支）を提出する。</li> <li>・実施した事業について、友松会HPなど適切な方法で他支部に公開する。</li> </ul>

次の通り（ 助成金・講師等派遣 ）申請について不交付としました。

不交付の理由	
--------	--

[様式 2 - 3]

令和 年度 支部活動活性化に係る報告書

年 月 日

友松会会長  
〇〇 〇〇様

申請支部 \_\_\_\_\_ 支部  
支部長氏名 \_\_\_\_\_

テーマ	
事業実施日	年 月 日
概要（箇条書きでまとめてください。参考資料があれば添付してください。）	

[様式2-4]

令和 年度 支部活動活性化に係る助成金会計報告書

年 月 日

収入合計	円
支出合計	円
差引残高	円

残高は、戻入します。

(1) 収入の部

日付	摘要	金額	備考
収入合計			

(2) 支出の部

日付	摘要	金額	備考
支出合計			

## **【事業3】 会員または会員が主となるグループの活動への支援**

### **【新規に設置する意図】**

支部会員に限らず全会員が、それぞれの立場や経験を通して教育につながる研究などについて取り組んでいること、会員同士の交流を図ったり、また、学校と連携したり地域の教育力の一環として取り組んだりしていることなど、友松会会員による諸活動に関心を持ち続けられるような活動に対して支援できるようにする。

「教育につながる」とは、間接的に教育に関与するものであっても支援できるようにするものであり、「教育関係の研究活動」（事業2）よりも幅広く対象とするものである。なお、この「事業3」には、学生会員の卒業論文作成などの研究活動や制作活動に対しての支援は含まれていない。

- ① 会員または会員が主となるグループで取り組んでいる教育につながる研究などについて、「友松会会員による研究活動等助成金申請書」（様式3-1）、活動の概要がわかるものを8月末日までに事務局に提出する。9月役員会において審議のうえ承認を得ることで助成金を受け取ることができる。
- ② 「教育につながる研究や会員相互の交流を促進するための活動」については、例えば、次のような例が考えられる。
  - ア 特別な支援を必要とする子どもに対しての指導・支援に携わっていて事例研究としてまとめたりまとめようとしていたりしているもの。
  - イ 地域の教育力の充実と学校との連携に関する活動として、子どもの体力向上に向けた活動をボランティアとして行っていて、その過程や成果に関して事例研究としてまとめたりまとめようとしていたりしているもの
  - ウ 学生会員が主となるグループとして取り組むボランティア活動に関して、学校に関わって取り組んだり取り組もうとしていたりしているもの。
  - エ 上記以外にも、趣味としてではなく、きょういくにつながる研究活動として取り組んでいたりボランティアとして取り組んでいたりする場合など、会員の活動に対して幅広く支援できるようにすることを想定している。
- ③ 助成金の支給を受けた個人またはグループは、申請した年度の2月末日までに所定の用紙により会計報告と報告書を事務局に提出することとする。
- ④ 「申請内容に基づいて実施した活動については、適切な方法で報告することを原則とする。」（細則）とは、他会員に対して、取り組まれたことについての情報を提供することにより、友松会員相互の交流が生まれたり、友松会全体の活性化につながられたりすることが考えられることから、友松会HP等を活用するなど、何らかの方法で全会員に向けてその内容を報告することを原則としているという意味である。

[様式3-1]

令和 年度 友松会会員による研究活動等助成金申請書

年 月 日

友松会会長

〇〇 〇〇様

友松会研究活動等の奨励に関する運営規定並びに細則に基づき、次の通り助成金の申請をします。

<small>ふりがな</small> 氏名	(グループの場合は代表者名)		
住所・連絡先	連絡先		
卒業学部名 課程・科名 (卒業年)			
活動名			
活動予定期間 具体的日程	年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( )		
活動目的			
主な内容			
申請額	円		
助成金 執行計画  可能な範囲で助成金も含めた活動全体が分かるように記載すること。	項 目	金 額	備 考
	合 計		
備考  グループ申請の場合、メンバーを記入すること			

※ 本申請書と活動の概要がわかる資料を添付すること。添付が無理な場合は事務局に相談すること。

[様式 3 - 2]

令和 年度 友松会会員による研究活動等助成金申請審査結果通知書

第 号  
令和 年 月 日

友松会会員

様

友松会会長 ○○ ○○

令和 年 月 日付で 様より申請のありました内容について、役員会において審議し、次の通り決定しましたので通知します。

次の通り、助成金交付を決定しました。

1 活動名	<hr/>
2 決定した内容	<input type="checkbox"/> 助成金 <hr/> 円
3 交付の条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金は原則として交付年度内で執行する。ただし、止むを得ない特別な事情があった場合は除く。</li> <li>・原則として交付年度の2月末日までに報告書(内容および収支)を提出する。</li> <li>・実施した活動について、友松会HPなど適切な方法で他会員に報告する。</li> </ul>

次の通り、助成金申請について不交付としました。

不交付の理由	
--------	--

[様式3-3]

令和 年度 友松会会員による研究活動等報告書

年 月 日

友松会会長

〇〇 〇〇様

報告者氏名 \_\_\_\_\_

テーマ	
事業実施日	年 月 日 ~ 年 月 日
概要（箇条書きでまとめてください。参考資料があれば添付してください。）	



[様式 3 - 4]

令和 年度 友松会会員による研究活動等助成金収支報告書

年 月 日

収入合計	円
支出合計	円
差引残高	円

残高は、戻入します。

(1) 収入の部

日付	摘要	金額	備考
収入合計			

(2) 支出の部

日付	摘要	金額	備考
支出合計			

## 〔事業4〕 その他の取組への支援

### 【新規に設置する意図】

研究奨励金の活用については、上記の「事業1～事業3」までが基本である。しかし、それらに該当しないが、学生も含めた会員にとって重要と考えられる支援や大学同窓会の一つである友松会として必要とされる母校への支援など「事業1～事業3」では対応できないが重要と思われるケースが考えられる。それらに対して通常の予算で対応できない場合など、検討の俎上に載せるために「事業4」の項を起こしてある。この「事業4」の申請内容については、役員会にて審議し承認の可否を決定することとする。なお、この「事業4」には、支部からの申請は含まれていない。

- ① 「〔事業4〕 その他の取組への支援」については、申請内容について、役員会にて審議し承認の可否を決定することになる。ここでは、次の2点を事例的に挙げておく。

ア 学生も含めた会員にとって重要と考えられる支援として特例申請をする場合、  
会員または会員が主となるグループから、上記の事業1～3に該当しないが、特例的に研究奨励金を申請する場合は、「友松会研究奨励金特例申請書」(様式4-1)、「友松会研究奨励金特例申請に係る事業計画書」(様式4-2)、「友松会研究奨励金特例申請に係る収支予算書」(様式4-3)」、申請に関する趣旨がわかる文書などを添えて事務局に提出する。提出された申請書等をもとに役員会において審議し、研究奨励金の活用の可否を決定する。

イ 大学同窓会の一つである友松会として必要とされる母校への支援をする場合  
友松会が横浜国立大学教育系学部同窓会であることから、大学とのこれまでの良好な関係を継続発展させていくことは重要と考える。そのことを踏まえ、検討すべき事柄が生じた場合、提示された資料等をもとに役員会において審議し、研究奨励金の活用の可否を決定することとする。

- ② 上記「ア」の場合は、一連の活動が終わった段階から1か月以内に、「友松会会員による研究活動等成果報告書」(様式4-5)および「友松会会員による研究活動等助成金収支報告書」(様式4-6)を事務局に提出する。
- ③ 上記「イ」の場合、様式は特に指定しないが、助成金の活用状況が分かる資料などをもとに、役員会に報告する。
- ④ 本規定の主旨は、事業1～事業3を充実させていくことによって、友松会全体の活性化を図ろうとするものである。したがって、この事業4による助成金等の執行は毎年あるものではなく、また、松沢研究奨励金の活用にあつさわしいのか否かをしっかりと役員会で審議することが重要であり、役員会の恣意的な執行となることのないようにしなければならない。

[様式4-1]

令和 年度 友松会研究奨励金特例申請書

年 月 日

横浜国立大学教育系学部同窓会  
友松会会長  
〇〇 〇〇様

申請者氏名・職名 (学年) <small>ふりがな</small>	
団体名	
団体所在地	
団体代表者氏名 <small>ふりがな</small>	
連絡責任者氏名 <small>ふりがな</small>	
連絡先 (電話・メールアドレス)	電話： メール：

友松会研究活動等の奨励に関する運営規定並びに細則に基づき、次の事業について関係資料を添えて助成金の申請をします。

事業の名称	
実施年月日	年 月 日 ( ) : ~ :
会場	
参加予定者数	
申請金額	
団体の業績	
共催団体名	
備考 参加者に会費がある場合は、具体的に示すこと。また、参加者がいる場合、募集方法も示すこと。	

※ 本申請書に合わせて、「友松会研究奨励金特例申請に係る事業計画書」(様式4-2)」と「友松会研究奨励金特例申請に係る収支予算書(様式4-3)」を添付します。



[様式4-3]

令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る収支予算書

年 月 日

収入合計	円
支出合計	円
差引残高	円

残高は、戻入します。

(1) 収入の部

項目	摘要	金額	備考
収入合計			

(2) 支出の部

項目	摘要	金額	備考
支出合計			

【特記事項】

[様式4-4]

令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る助成金申請審査結果通知書

第 号  
令和 年 月 日

友松会会員

様

友松会会長 ○○ ○○

令和 年 月 日付で 様より申請のありました内容について、役員会において審議し、下記の通り決定しましたので通知します。

記

次の通り、助成金交付を決定しました。

1 活動名	<hr/>
2 決定した内容	<input type="checkbox"/> 助成金 <hr/> 円
3 交付の条件	<ul style="list-style-type: none"><li>・助成金は原則として交付年度内で執行する。ただし、止むを得ない特別な事情があった場合は除く。</li><li>・原則として交付年度の2月末日までに報告書(内容および収支)を提出する。</li><li>・実施した活動について、友松会HPなど適切な方法で他会員に報告する。</li></ul>

次の通り助成金申請について不交付としました。

不交付の理由	
--------	--

[様式4-5]

令和 年度 友松会研究奨励金特例申請に係る報告書

年 月 日

横浜国立大学教育系学部同窓会

友松会会長

〇〇 〇〇様

申請者氏名・職名 (学年) <small>ふりがな</small>	
団体名	
団体所在地	
団体代表者氏名 <small>ふりがな</small>	
連絡責任者氏名 <small>ふりがな</small>	
連絡先 (電話・メールアドレス)	電話： メール：

事業名称	
事業実施日	年 月 日
概要 (箇条書きでまとめてください。参考資料があれば添付してください。)	





## (参考資料)

### 友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定

#### 【規定の名称】

本規定は「友松会 研究活動等の奨励に関する運営規定」と称する。

#### 【規定の目的】

本規定の目的は次の通りとする。

- 1 会員の教育関係の研究・業績に基づき奨励する。
- 2 支部会員による教育関係の研究を啓発・支援する活動や支部における会員相互の交流を図る活動等、支部活動の活性化を目指す活動に対して支援する。
- 3 会員、または、会員が主となるグループで取り組んでいる教育につながる研究や会員相互の交流を促進するための活動などに対して支援する。
- 4 その他、役員会が認めたものに対して支援する。

#### 【事業】

本規定の目的に基づく事業は次のとおりとする。

##### 【事業1】

松沢研究奨励賞を次の部門ごとに授与する。

- ① 松沢研究奨励賞A部門として授与する。受賞者は原則として年間2件とする。  
受賞者の選考にあたっては、ブロック副会長の推薦に基づき役員会で承認する。但し、止むを得ない事情により受賞該当者がいない場合は、受賞者なしとする。
- ② 松沢研究奨励賞B部門として授与する。各支部年間1件以内で受賞を可とする。  
受賞者の選考にあたっては、支部からの推薦に基づき、ブロック副会長が承認し、役員会に報告する。
  - ・B部門受賞者がA部門の受賞者となることを妨げない。

##### 【事業2】

支部活動活性化を目指す次の項目に係る活動に対して、支部からの申請を受けて支援する。

- ① 支部が企画した教育関係の研究に係る活動。
- ② 支部会員が相互に交流する活動。
  - ・申請内容の妥当性について、役員会で審議し承認する。
  - ・支援については、助成金、講師派遣とする。

##### 【事業3】

会員、または、会員が主となるグループで取り組んでいる教育につながる研究や会員相互の交流を促進するための活動などについて、申請を受けて支援する。

- ・申請内容の妥当性については、役員会で審議し承認する。
- ・支援の内容は、教育につながる研究などに係る助成金とする。

##### 【事業4】

その他、役員会が認めたものに対して支援する。

#### 【付則】

- 1 本規定は理事評議員会において改定する。
- 2 本規定に基づく事業の運営に必要な細則は別に定める。
- 3 本規定に依る研究奨励金については、毎年、執行状況を整理し理事評議員会で報告する。  
また、基金の原資の減少を見越し、原則として3年ごとに役員会において本事業について見直しをする。
- 4 本規定は令和5年6月1日より実施する。

## (参考資料)

### 友松会 研究活動等の奨励に関する細則

#### 【対象】

本事業の対象は、会員、または、会員が主となるグループとする。会員とは友松会会則 第2章 組織 第4条によるものとする。但し、事業1、事業2については、学生会員を対象としない。

#### 【事業1】

松沢研究奨励賞受賞にあたっては、他機関によるものを含め、同一事項について表彰を受けたことのないものとする。

##### < A部門 >

受賞者は研修部作成によるブロックごとの輪番制から1件、総会開催ブロックから1件とする。受賞者には、賞状と奨励金（3万円）を贈呈する。

受賞者は、原則として友松会研究発表会等の場で報告することとする。

##### < B部門 >

受賞者は教職経験5～10年を目安とする。受賞者には、賞状と奨励金（1万円）を贈呈する。

受賞者は、原則として受賞内容について「友松」への掲載など適切な方法で報告することとする。

#### 【事業2】

支部からの申請は所定の申請書に依るものとし、締切は8月末日とする。助成金は年間最大3万円までとする。

助成金の支給を受けた支部は、実施日から原則として1か月以内に、所定の用紙により会計報告と報告書を事務局に提出する。申請は毎年できることとする。

申請に基づいて実施した内容については、原則として適切な方法で報告することとする。

#### 【事業3】

会員、または、会員が主となるグループによる申請は、所定の申請書に依るものとし、締切は8月末日とする。

申請内容を踏まえ、年間最大1万円まで助成金を受けることができる。助成金の支給を受けた会員、または、会員が主となるグループは、原則として申請年度の2月末日までに、所定の用紙により会計報告と報告書を事務局に提出する。

申請は毎年できることとする。

申請に基づいて実施した内容については、原則として適切な方法で報告することとする。

#### 【事業4】

会員、または、会員が主となるグループからの特例申請がある場合、役員会で審議する。また、上記、事業1～3に該当しないが有効な活用と考えられる場合も、役員会において審議する。審議の結果を踏まえて助成金を執行する。申請に基づいて実施した内容については、原則として適切な方法で報告することとする。

#### 【研究活動等の奨励に係る基金】

研究活動等の奨励に係る基金は、次の基金・寄付金等を充てることとし、研究奨励金と称する。

- 1 松沢高次郎氏の遺志を顕彰するため、その後継者会員相澤義雄氏による基金
- 2 吉田太郎氏、水戸部正男氏、大浦美代氏の寄付金
- 3 基金に賛同された有志からの寄付金

#### 【付記】

- 1 本細則は役員会において改定し理事評議員会に報告する。
- 2 本事業の具体的運営に必要な運営の手引きは別に定める。また、その内容変更は役員会において改定し、理事評議員会に報告する。
- 3 本細則は、令和5年6月1日より実施する。

(参考資料)

「事業1 A部門」受賞候補者選出計画一覧

(資料5)  
(参考資料)

松沢研究奨励賞 受賞者選出地区一覧

2023/3/6

地区 年賦	川崎		三浦半島			湘南			中				西湘				県央			
	横浜	川崎	横須賀	逗子・葉山	三浦	鎌倉	鎌沢	茅ヶ崎・寒川	平塚	中	伊勢原	秦野	足柄上	小田原	足柄下	大和	相模原	高橋 座間・海老 名・磯原	厚木・愛甲	津久井
昭和	原小・原中																			
42																				
43																				
44			小・高橋						中・小沢											
45			高・大谷						中・高橋											
46																				
47			小・松下																	
48			中・渡谷																	
49	中・須藤																			
50			小・関口																	
51	大口台小・中野		武山小・増田				御成小・馬場													
52	東高・岩村																			
53																				
54		川崎小・葉輪 市教委 小田切																		
55	竹山小・深井 大塚中・笠原 市相模原・大出																			
56			浦賀小・石渡 青葉小 小田切																	
57	末吉小・金子																			
58	本牧南小・阿部 南大田小・榎松																			
59	滝頭小・中村																			
60	市教育センター ・田村	日吉小・丸山	東浦小 ・白石	逗子中 ・高梨																





地区 年度	信濃			川崎			幸島			湘南			中			西湖			風吹			
2013	25																					
2014	26	三ツ沢小・本多																				
2015	27		新堀小・上岡																			
2016	28		東高津小・新田																			
2017	29																					
2018	30	金沢中・井上																				
平成30年(2018)度まで松澤賞受賞者は「豊かな教育を語る会」で発表され、翌年の「友松」で紹介して紹介してきた。しかし、会場・開催時期・参加者確保加等の課題から、研修部を中心に今後の「豊かな教育を考える会」と松澤受賞者の紹介等の検討が始まった。																						
2019	H31R 1		新堀小・鈴木																			
(川崎支部で発表)																						
2020	2																					
沼間小・酒井																						
2021	3	令和2年(2020)度と令和3年(2021)度は、新型コロナ感染防止対策のため、定期総会が開催出来なかった。そのため前年度松澤賞受賞者の総会発表が出来ない状況となった。研究内容は、それぞれ翌年の「友松」誌面で紹介した。 また、令和3年度は「豊かな教育を考える会」の検討と松澤賞選考は、新型コロナ感染防止対策の為に十分な活動が出来なかった。その為、令和3年度の松澤賞選考は、やむを得ず見送ることとした。																				
2022	4	大岡小・榎野																				
湘三事務所 ・増子																						
令和4年度定期総会では、令和2年度松澤賞の表彰を行い、令和4年度松澤賞の表彰と研究発表を行ったこととした。今後も定期総会では前年度松澤賞受賞者が研究発表を行い、その発表資料は総会で配布する「友松」の記事とすることとした。																						
2023	5		** ** *																			
2024	6		** ** *																			
2025	7		** ** *																			
2026	8		** ** *																			
2027	9		** ** *																			
2028	10		** ** *																			** ** *
2029	11		** ** *																			

**総会開催地区  
受賞者選出**

- ※ R2年とR3年の定期総会は県央地区が担当しましたが、コロナ感染拡大により2年続けて中止しました。
- 1 基本は、毎年2名を選出する。7地区から、翌年度総会開催地区から1名、他地区から1名を選出する。
- 2 会員数や学校数から各地区の選出割合を一律とはしない。優れた研究や受賞に値する場合は受賞者人数の範囲内で選出する
- 3 この表は受賞決定年度毎に整理した。受賞者は翌年度総会で表彰する。また、受賞年度の翌年の「友松」で紹介する。
- 4 選出順は概ねの予定とし、その各地区状況により変更を可とする。これらは役員会・理事会で決定する。